

## 総評

例年通り大問 5 題で構成され、各設問に 5 点配点の論述問題が配されている。出題形式内訳は記述問題 4 題(12 点)、選択問題 21 題(63 点)、論述問題 5 題(25 点)であり、一問一答的な記述問題の出題が減少した一方で、選択問題の出題が増加した。学年別の内訳は中 1 内容 35 点、中 2 内容 23 点、中 3 内容 42 点となり、分野別では地理 32 点、歴史 38 点、公民 30 点となっている。地理の配点が昨年と比べて 5 点、公民の配点が 10 点減少しており、一方で歴史は昨年から 15 点の増加となった。平均点は昨年に比べて低下し、60 点前後になると予想される。

## 難易度・出題単元・解法のポイント

## 【第一問】世界地理 《普～やや難》 〈記述 3 点 選択 12 点 論述 5 点〉 計 20 点

中国・インドに関する出題。中国・インドともに入試直前ゼミで取り扱った地域となるが、選択問題が悩ませてくる。

1.(1)ほぼ同じ図を実戦ゼミで取り扱っている。1.(2):中国東北部での農業。小麦はともかく綿花ととうもろこしの判別は困難。綿花はインドやアメリカ南部での生産が多いことを覚えていれば、寒冷な地域では栽培されないと推測できるだろう。(4):2 国の畜産に関する判別問題。深く考えずに中国は豚が多い、インドは牛乳生産量(=牛)が多いと選べばよい。2(2):資料の読み取りは難しくないが、中国の方が所得増+少子化=子供一人当たりの教育費が増える、と結びつけて考えられるかどうかが正念場。

## 【第二問】歴史 中世・近世 《易～普通》 〈選択 15 点 論述 5 点〉 計 20 点

鎌倉時代～江戸時代における貿易政策に関する出題。特に難しい設問はなく、論述も含めて基本的な知識があれば得点源。

海外交流史は秋期講習会の 1 テーマとして実施している。しっかりとノートにまとめ、復習を行っていれば初見問題はなかつただろう。A:日宋貿易(平安末) B:勘合貿易(室町) C:朱印船貿易(江戸初) D:鎖国(江戸初～末)という前提さえ押さえておけば問 2～4 はあらかた得点源となる。5:世界史の選択肢ではあるが、大航海時代→南蛮貿易のつながりを抑えていれば難しくはない。6:各資料の特徴を読み取るだけ。特に二つの資料をまとめる必要もなく、資料 II に至っては知識があれば資料すら不要。

## 【第三問】公民 政治・選挙 《易～やや難》 〈選択 15 点 論述 5 点〉 計 20 点

文章を吟味する選択問題・表の読み取り・論述と出題され、語句の暗記だけではなく、正確な意味の把握が必須となる。

3:請願権=何かをお願いする権利、としか考えていなければ 2 択までしか絞れない。請願権は参政権の一つであり、ウの刑事補償請求権の「請求権」と混同しないように注意。4:国民投票法の改正により 2018 年 6 月以降、満 18 歳以上に投票年齢が引き下げられた。「満 18 歳以上」という記述から、ほとんどの受験生が選挙権(公職選挙法)のことと誤解したと思われるが、選挙=投票と誤解していても正答は選べる。が、この機会に正しく覚えておこう。5(2):選挙に関する論述で「若者に選挙への関心を持たせる」ことを求めるのは定番中の定番。資料を適切に用いて確実に正答しよう。

## 【第四問】三分野融合問題 《普》 〈記述 3 点 選択 9 点 作図 3 点 論述 5 点〉 計 20 点

東京オリンピック・パラリンピックを題材とした融合問題。表の読み取りや地図の書き込みなど、やや意表を突いた設問が多い。

1(2):15 カ国について北半球か南半球か、含まれる州はどこかとチェックしていく必要がある。焦らず丁寧に解けば難しくはない。2:日ソ共同宣言=日本の国連加盟については秋期講習会・実戦ゼミ・冬期講習会で幾度となく問われた定番問題。3(1)(2):地図を用いた都道府県の確認は第 18 回実戦ゼミで実施済み。こちらも 1(2) 同様に焦らず正確な図示・吟味を心掛けること。4:本年度の論述問題の中では比較的解きやすい。「参加国・人数の増加→外国人でも分かりやすくする」ことを明示すればよい。

## 【第五問】歴史・公民 《やや易～普》 〈記述 6 点 選択 9 点 論述 5 点〉 計 20 点

近世～現代の歴史に関する出題と、公民分野の論述問題。宮城県傾向の論述問題演習の成果が試される。

2:文明開化は第 18 回実戦ゼミで出題されている。6.「どのようなまちづくり・社会を目指すか」はどちらも資料を用いた論述で頻出のパターン。直前ゼミでも同様の出題形式で演習を行っている。「生涯学習」という言葉をヒントに資料 A・資料 B をまとめると良い。解答の丸暗記ではなく、論述の方法・考え方を学んできた受験生なら正答から大きく反れることはないだろう。